H25　2　18
No.13

「子どもと創る授業」を考える

ハイライト：

- **授業をもとに、「本気の学び」を考える**
- **「教師の本気」と「子どもの本気」①**
  ～宮川校長の授業～
- **「教師の本気」と「子どもの本気」②**
  ～植田先生の授業～
- **キャリア教育の視点から、授業を観る**
- **協議会は、次のように進めます**

授業をもとに、「本気の学び」を考える

2月18日（月）の研修は、研究発表会に引き続き、奈須正裕先生にご来校いただき、宮川校長、植田先生の授業を通して、「子どもと創る授業」について考えていきます。今回の研修の目的は、次のようになります。

本年度の研究の成果と課題を、次年度の研究につないでいくための方向性について、全職員で共有する。

本年度は、「子どもの目が輝く学習の創造」をめざし、「聴き合い・語り合い活動」を中心に授業づくりを進めてきました。よりよい授業を創り出していくために、チームの力を生かし、それぞれの先生方が真摯に取り組まれてきました。その結果、久原小学校の子どもたちが目を輝かせて学習する姿が増えてきたことは、先生方自身が実感されていることでしょう。

これは、先生方の指導力が高まってきていることの証しであり、子どもの学びの姿の高まりでもあります。

では、私たちは、今の自分の指導力、学級の子どもたちの学びの姿に満足しているでしょうか？おそらく、「満足していない」と感じている先生が多いでしょう。これは、高まって到達したレベルが当たり前になり、今までめざすことができなかった新たなレベルへの挑戦が始まっているのです。

今回の2つの授業に共通するテーマは、「本気の学び」です。今の私達に必要なことは、「学びを見とる目」「深める技」をより豊かに、深く、鋭くしていくことです。「子どもが本気で学んでいる姿」とは、どのようなものなのか、「教師が本気で指導する姿」とは、どのようなものなのか、一人一人が課題意識をもって、今回の研修を創り出していきましょう。

「教師の本気」と「子どもの本気」①　～宮川校長の授業～

今回、宮川校長が自ら授業を行う意味を考えてみましょう。私は、今回の授業通して、「子どもたちに本気で学んでほしい」「先生方に本気で指導してほしい」という思いが込められたメッセージだと捉えています。もちろん、今でも子どもたちは本気で学習していますし、先生方も本気で指導しています。研究発表会では、子どもたちも先生方も、すばらしい目の輝きを生み出すことができました。だからこそ、今の久原小学校のよさをつなぎ、さらに高めていきたいという思いが込められているのです。

宮川校長は、今日の公開授業に至るまで、6年生の子どもたち一人一人の思いをしっかりと受け止め、真摯に授業づくりを進めてこられました。その過程で、自身の母親への思いを伝えていくと、2人の子どもたちから手紙をもらったそうです。その手紙には、子ども自身が自分の置かれている環境と重ね合わせ、感動したことが綴られていたそうです。「教師の本気」が子どもの心に響き、「子どもの本気」を生み出したのです。私たちは、今日の授業で、「教師の本気」、「子どもの本気」をしっかりと見とっていきましょう。

「教師の本気」と「子どもの本気」②　～植田先生の授業～

植田先生の授業のキーワードは、「解釈」と「一人一人の感じ方の違い」です。教材文「手ぶくろを買いに」を音読する活動を通して、子どもたちが物語への解釈を深めていくことをねらっています。

この単元では、「解釈」を次の４つのレベルで捉えています。

①場面の様子がわかる叙述に線を引く
②そこから想像できることを書き込む
③複数の書き込みを整理し、まとめる
④聴き合いから、付加・修正する

これまでの学習では、①②をもとに音読をさせ、④を行っていました。しかし、②→④の過程で、子どもたちの解釈は、本当に深まっていたのでしょうか。深まっていると思い込んでいたのではないでしょうか。

そこで、植田先生は、前時に③として自分の解釈を整理し、まとめる活動を仕組んでいます。この活動を設定することで、自分の今の解釈を明確にできるのです。そして、本時の音読の聴き合いを通して、一人一人の感じ方の違いを捉え、より深い解釈を生み出していこうとしています。

私達は、音読のうまさではなく、解釈の深まりを見とっていきましょう。

キャリア教育の視点から、授業を観る

子どもと教師が本気になる学びを創り出していきましょう。

先日の特別支援教育チームからの実践報告会で、キャリア教育の視点から教育活動を評価・改善していく必要性を確認しました。今回の２つの授業でも、キャリア教育の視点から分析していくことは大切なことです。

宮川校長が行う道徳の授業は、6年生の子どもたちの「キャリア形成」の一つとなるものです。将来の自分の環境で認知症と出会った時、どのような価値観で自分の役割を見いだすのか、その価値観を創るキャリアとなっていくでしょう。子どもたちが他者とのかかわりの中で「自分らしい生き方」を創り出していくための「生き方指導」「在り方指導」になるのです。

植田先生の国語の授業は、キャリア教育でめざしている基礎的・汎用的能力における自己理解の育成につながるものです。先生から指示され受動的に漠然と活動を行うのではなく、子どもたち一人一人が、真摯に教材文に向き合って活動を進めています。これは、教材文を解釈することを通して、自分自身を深く見つめているのです。そのために、毎時間、評価規準を明確に設定し、一人一人の解釈の見とりを丁寧に行っているのです。

協議会は、次のように進めます

1	講師紹介（井上）	15:10
2	協議	15:10～15:40
	・授業者の説明・自評（宮川・植田）	
	・授業についての協議（チームごと）	
3	講話	15:40～16:40
	「子どもと創る授業　～学びを見とる目、深める技～」	
	奈須　正裕　先生	
4	まとめ（井上）	16:40

協議会では、まず、宮川校長と植田先生が、「授業に込めた思い」と「本時の学びの見とり」について説明します。それを受け、それぞれのチームで２つの授業についての見とりを協議していき、その内容を代表者が全体に伝えていきます。最後に、奈須正裕先生に「子どもと創る授業」についてお話しいただき、２つの授業の価値を共有し、次年度の方向性を明らかにしていきましょう。有意義な研修を、みんなで主体的に創り上げていきましょう。